

# 安心の設計

介護、医療、子育て、老後に関するご意見・疑問をお寄せ下さい  
メールansin@yomiuri.com  
ファックス03・3217・9957



「飛行機の部品作りはとにかく緊張する」と口をそろえる遠藤さん(右)と長瀬さん。手前はMRJの模型(昨年11月30日、岐阜県中津川市の加藤製作所で)=野口博文撮影

みんなで未来へ

## 働く輝くシニア

**68歳**

ガラス張りのエリアで、防じんマスクをした男たちが黙々と作業している。部外者の立ち入りは禁止。手のひらほどの金属の部品を丁寧に紙やすりで磨き上げていた。岐阜県南東部に位置する中津川市の金属製品加工「加藤製作所」。磨いているのは、ジェット旅客機ボーイング787型機の主翼の部品だ。

「飛行機の部品作りは、乗客の命に関わる仕事。安全のために手抜きはできません」。「航空機チーム」の遠藤久さん(68)は職人の顔になった。ただ、入社したのは5年前。それまで47年間、和菓子職人一筋だった。「和菓子も味や見た目が大事で緊張したけど、今の緊張感は半端やないね」

1966年に中学校を卒業し、地元の和菓子店「梅園」に入った。竹べらで生菓子に細工を施し、多い日は2000個を作った。57歳の時、甘味茶屋を開いたがうまくいかず、職人を引退。年金を満額受給するに

20年先の未来を想像してみよう。通勤電車、職場、仕事帰りの居酒屋……。見渡せば3人に1人は65歳以上。2040年はそんな時代だ。現役世代が60歳過ぎで引退すれば、医療や介護など暮らしの安全網は揺らいでしまう。現役でいる期間を延ばす必要がある。すでに実践している先輩たちの姿に迫った。

は、数年は働く必要があり、ハローワークで見つけたのが部品加工の仕事だった。

「和菓子職人なら手先が器用だろう」と、航空機チ

ームに配属された。「手仕事といつても、まさか飛行機の部品だなんて。うまくできるだろうか」。不安な気持ちのまま、63歳の新入社員生活が始まった。

機の部品だなんて。うまくできるだろうか」。不安な気持ちのまま、63歳の新入社員生活が始まった。

機の部品だなんて。うまくできるだろうか」。不安な気持ちのまま、63歳の新入社員生活が始まった。

機の部品だなんて。うまく

できるだろうか」。不安な

気持ちのまま、63歳の新入

社員生活が始まった。

機の部品だなんて。うまく

できるだろうか」。不安な